

# 資源の呪いの原因・影響とその脱出方法

筑波大学大学院リスク・レジリエンス工学学位プログラム

2022年度リスク・レジリエンス工学グループPBL演習 第2班

浅見理王 川坂勇太 金秀樹 近藤慎佑

# 目次

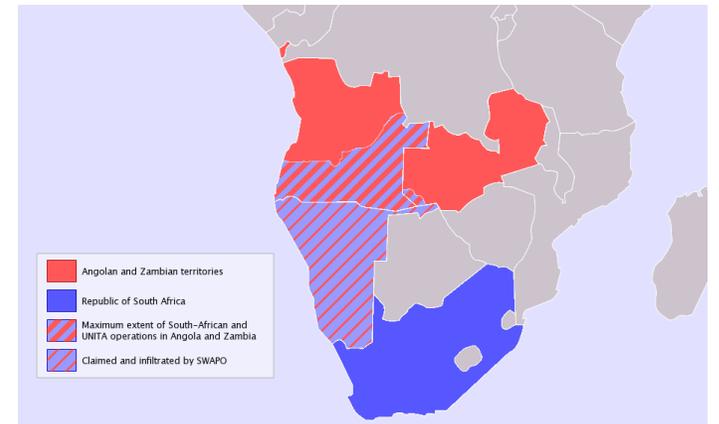
- はじめに
- 研究目的
- 資源の呪いの定義と原因
- 資源国の現状調査
- 現状の考察
- 資源の呪いとのかい
- まとめ



はじめに

# はじめに

- **コンゴ、ベネズエラ、アンゴラといった発展途上国において、天然資源が豊富であるがゆえに、経済成長が阻まれているという事例が多く存在している。**
  - **コンゴ民主共和国は、豊かな天然資源に恵まれているにもかかわらず人間開発指数で182カ国中176位であり、社会経済的に劣悪な状態である。[1]**
  - **ベネズエラでは、政治の状況は長期にわたり不安定で、独自の工業体制を確立できず、石油輸出への依存度はますます高まっている。一旦原油価格が下落すると、経済は後退する。[2]**
  - **アンゴラは、「資源の呪い」に陥った代表的な例であり、1975年の独立以来、腐敗と内戦を経験してきた。天然資源はたくさんあるが、将来のための投資や全国民のための福祉を提供することはできない。**



アンゴラ内戦の構図  
出典：<https://en.wikipedia.org/wiki/Angola>

# はじめに

## ■ JOHN L. HAMMOND

- 「資源の呪い」は、資源の富そのものの結果ではなく、政治的条件によるものだと主張した。[2]

## ■ 黒宮

- 国の規模、経済の発展度合い、原油・天然ガスといった天然資源への依存度等で多様性に富む中東・北アフリカ諸国の経済を分析し、資源に乏しい国の経済が資源に富む国の経済よりも、高い経済成長を達成するという一見矛盾する現象を発見した。[3]





# 研究目的

# 研究目的

## ■ 前提

- 「資源の呪い」の定義を説明する。
- 「資源の呪い」に陥った国の経済的・政治的状況を説明する。

## ■ 課題の分析・検討

- 社会政治学、マクロ経済学の観点から「資源の呪い」がもたらす課題を分析する。
- 「資源の呪い」の悪影響を受ける国に対する対処法を検討する。



# 資源の呪いの定義と原因

## 資源の呪い(定義)

- 資源の呪いとは

豊かな天然資源がある国や地域では、経済成長が難しくなるばかりか、経済発展が遅れたり、経済水準が低下したりするという現象である。



資源を輸出するだけで莫大な収入が得られるということで容易に経済が発展しそうだが、このような国では経済的に楽になると、人々は働く意欲を失ってしまう。そして、資源経済への依存が生じやすく、さまざまな問題が生じる。



# 資源の呪い(原因)

## ■ 経路依存性

資源国は、その豊富な資源の輸出等による多くの収入を得ることができる。その仕組みに頼ることで、資源産業以外の新たな産業を育てることをしなくなり、経済構造はますます単一になる。[3]

## ■ オランダ病[7][8]

オランダで最初に発生したことから名付けられた。  
天然資源の輸出により為替レートが上昇することで、他の輸出品が競争力を失い自国の製造業が衰退する。

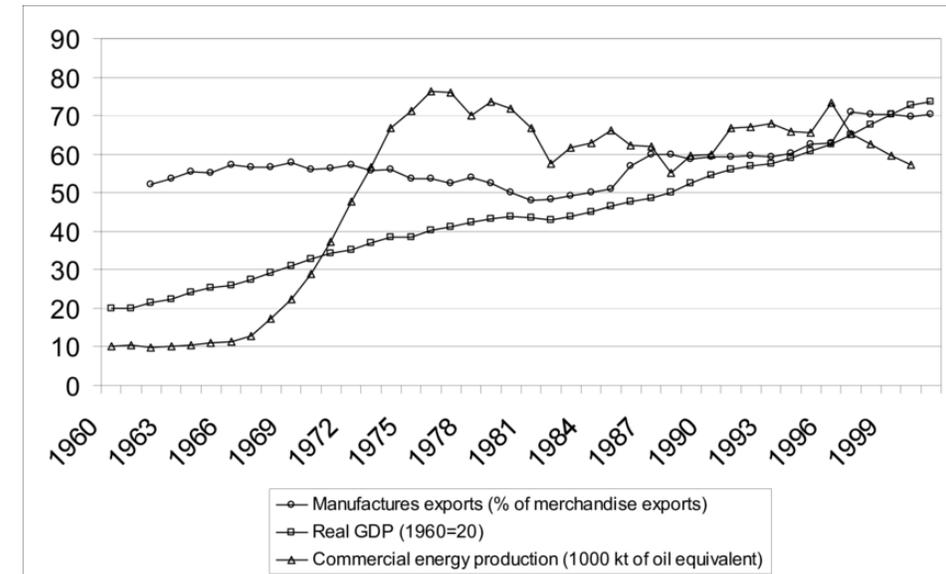


図2.オランダReal GDPの推移

出典：“Fear of Croatian Dis-ease. Is there a danger of a Dutch Dis-ease Effect with respect to a boom in the tourism sector in Croatia in the long run-’The Croatian Disease’ [16]

# 資源の呪い(原因)

## ■ 資源の有限性

天然資源には限りがあるので、天然資源に依存した経済は持続可能ではない。最初の段階では繁栄するかもしれないが、全体としては衰退の傾向に向かう。 [9]



図3. カルグーリーのスーパーピット金鉱山

出典: The Super Pit gold mine in Kalgoorlie

<http://landdegradationassignment.weebly.com/impact.html>

# 資源の呪い(原因)

## ■ 工業化の遅れ

発展途上国では、資源輸出による収益により工業化の着手や発展が遅れる傾向にある。工業化が遅れると既存の資源輸出による収益に頼ることになり、経済成長が減速する。 [10][11][12]

## ■ (政治の) 腐敗と独裁

資源の輸出により多くの国や企業と取引を行う独裁政権国家では、税金等で収益を上げる必要がないため、民意が疎かになる。さらに、資源の輸出で多くの国や企業と取引をする過程で、賄賂やキックバックの機会が多くあり、資源の輸出かで国の財政と私腹を肥やす環境から抜け出せなくなる。 [13][14]

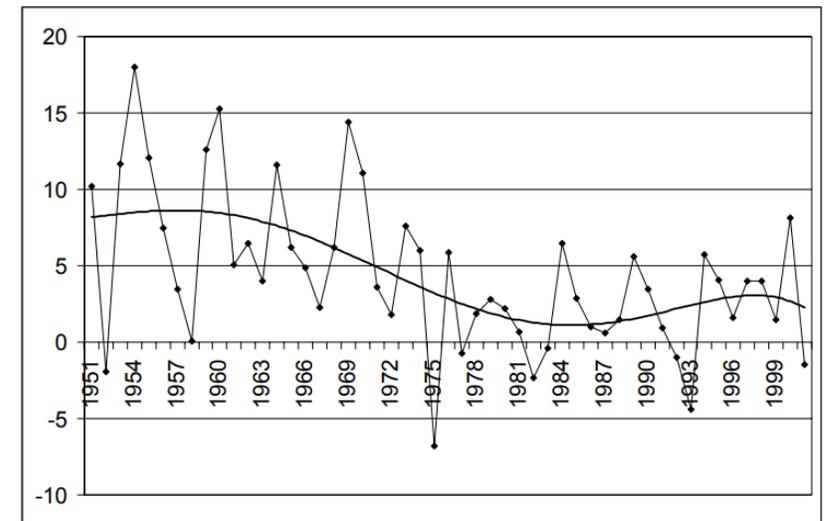


図 4. オランダの金属・電機産業、生産指数の推移 [8]



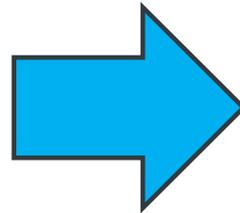
# 資源国の現状調査

# ロシア連邦

年7%の高度成長  
(2000年～2008年)

2007年までにGDPが  
1兆3000億ドルに到達

世界経済に占める割合が  
2%→4%へ増加



国民所得が倍増

貧困人口の半数が  
脱却

# ロシア連邦

- 以降は茨の道を進んでいる。

翌年、GDPは  
7.9%減少

2008年  
金融危機

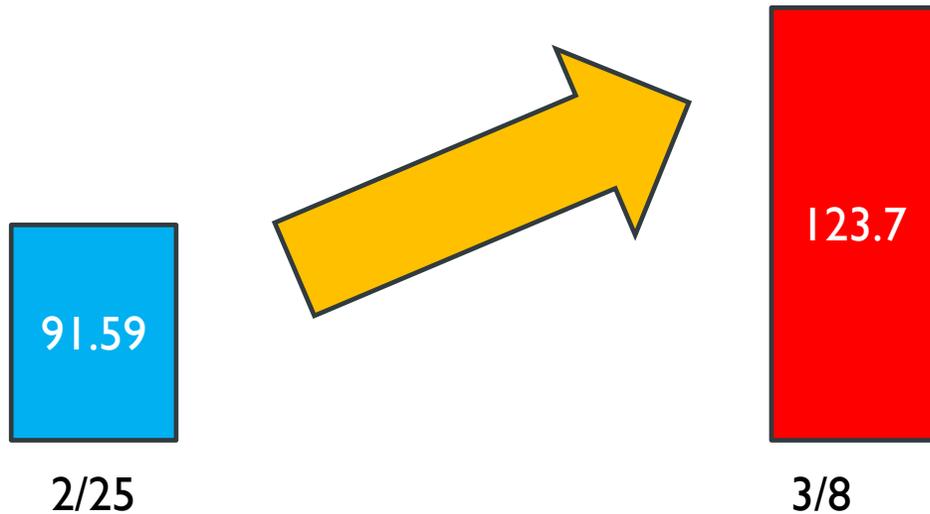
2014年  
経済危機

2020年  
COVID-19

- 2022年はウクライナ侵攻による影響が甚だしい。  
2008年金融危機より大きい下げ幅になる可能性あり。

# ロシア連邦

- ウクライナ侵攻が2/24に発生してからWTI原油価格指数が急上昇



単位:ドル/バレル

- 世界第2位の原油輸出国かつ欧州最大の天然ガス供給国  
→西側諸国に40年に一度の激しいインフレが発生、甚大な影響

# ベネズエラ

- 2000年代に一度、政治・経済的な危機を乗り越えた国である。経済成長率は2004年に17%、2006年に9.4%をたたき出した。
- 福祉支出も潤沢だった。例えば、ガソリンがほぼ無料で入手できた。

# ベネズエラ

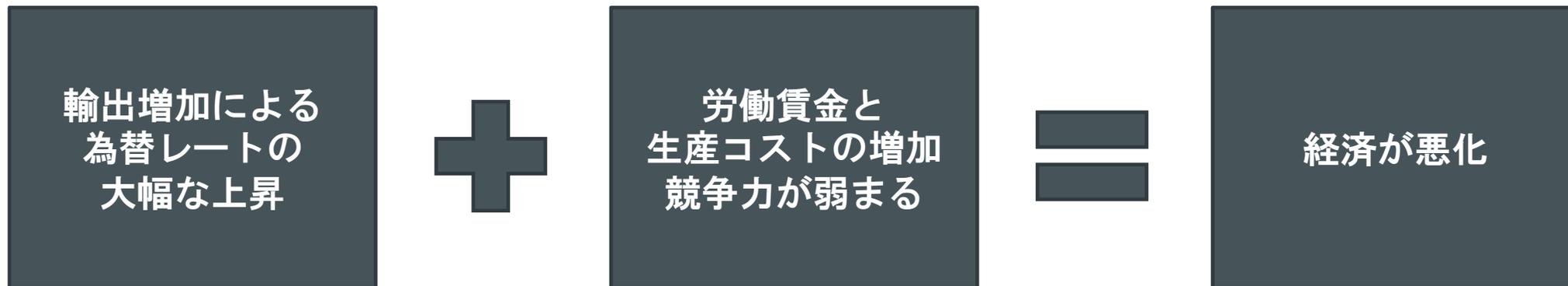
- 2012年にマドゥロ政権が発足すると状況が一変。



- 2016年には消費者物価が800%も上昇、経済が18.6%も縮小した。失業率は2016年に17.4%、2017年に20.7%まで達した。

# オランダ

- 1937年の第1次石油危機後、天然ガス輸出から多くの収入を得て社会福祉を向上させたが...



- 経済が悪化すると、社会保障システムの負担も大きくなった。  
第二次世界大戦後20年間で確立した福祉国家システムを維持する負担も増大。

# オランダ

- 前項の現象は「オランダ病」と呼ばれる。
- この窮地から20年ほどかけて脱却。通称「オランダの奇跡」。

# オランダ

## ■ 経済成長

1998年～2000年	平均約4%の経済成長率を記録。 EUの平均を上回る。
2001年～2005年	世界的な経済低迷に飲まれ、一時的に苦戦する。
2006年	第2四半期で2.8%の成長を記録。 オランダ統計局より。
2009年	金融危機により、厳しい金融政策が終わりを告げた。 大手銀行が部分的に国有化され一命をとりとめる。

- ほか、失業率や国家予算の観点でも優秀な成績を残した。



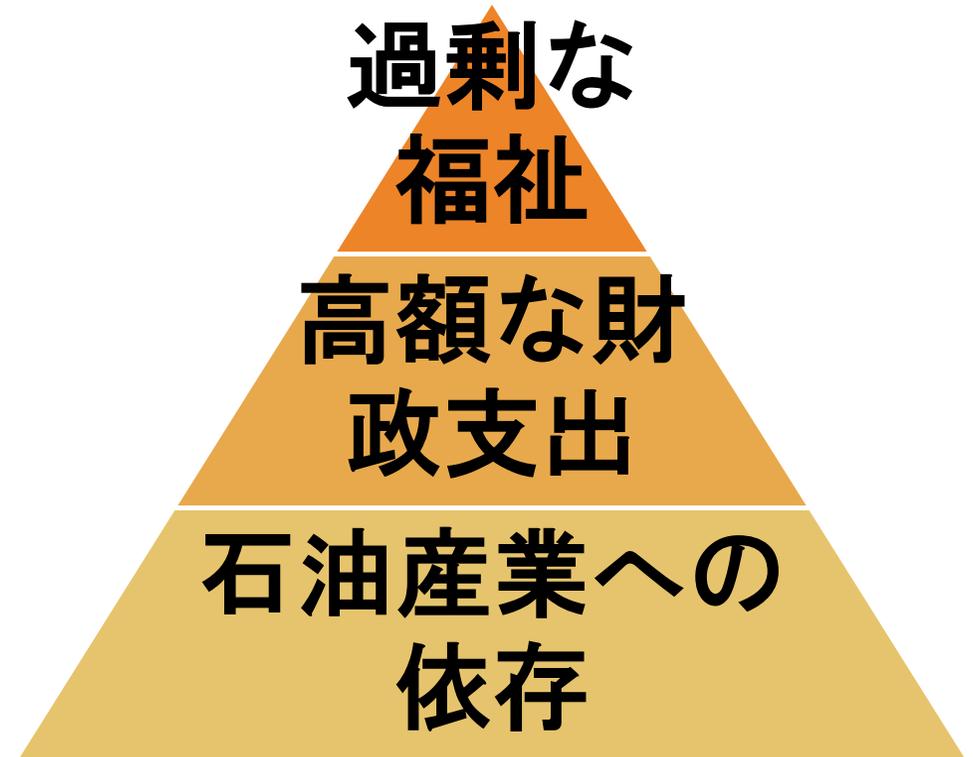
# 現状の考察

# 資源国と世界経済

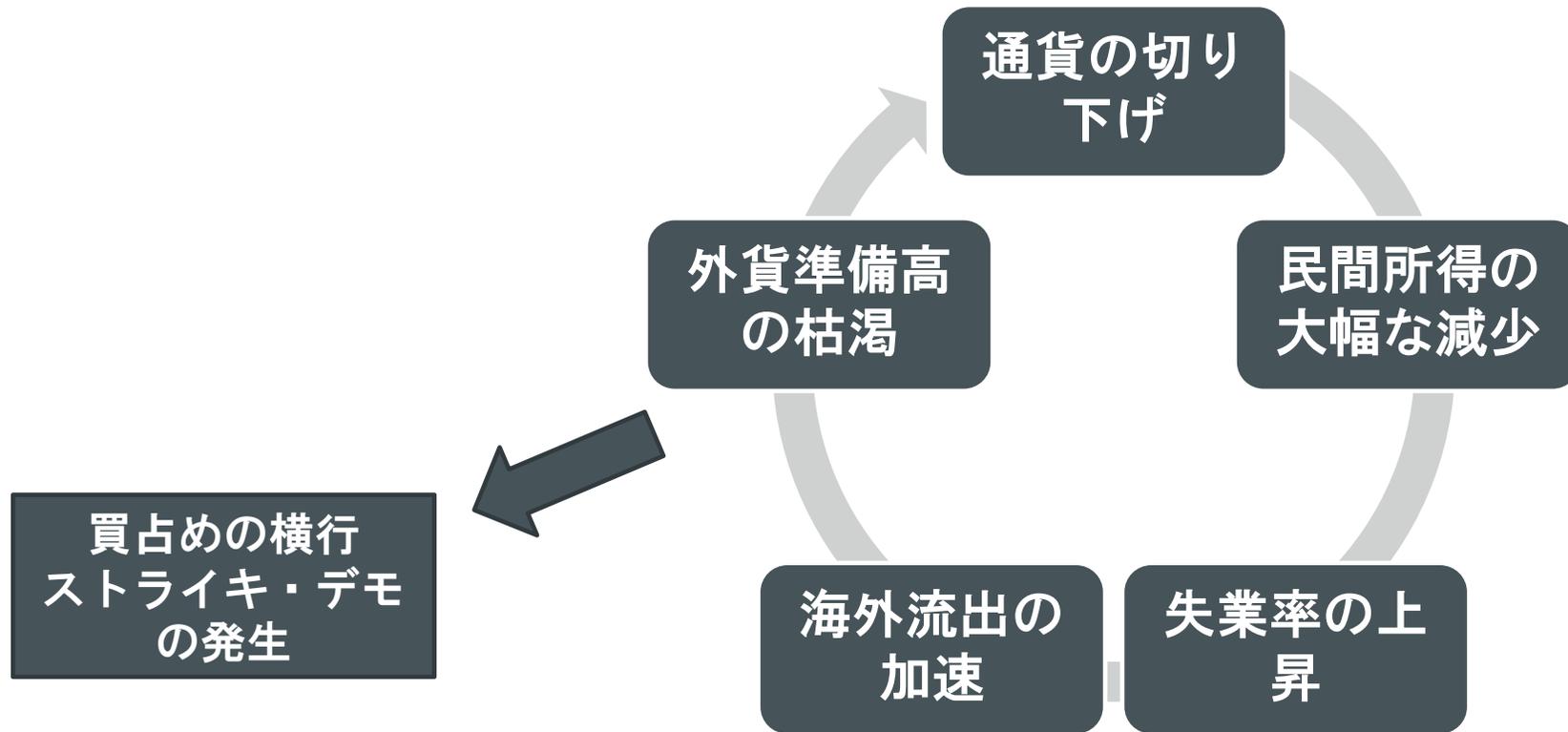
- ウクライナ侵攻で、ロシアは多数の経済制裁を受けた。  
→原油・天然ガス・農産物の価格が高騰。欧米の多数の国にまで影響を及ぼす。
- イランやベネズエラなどが同様に制裁を受けた場合にも、  
大口商品の価格高騰、世界経済の成長率の大幅な低下、急激なインフレの発生は必定である。

# 資源国の国内問題

- ベネズエラの急激なインフレは、石油価格が原因の全てではない。



# 資源国の国内問題



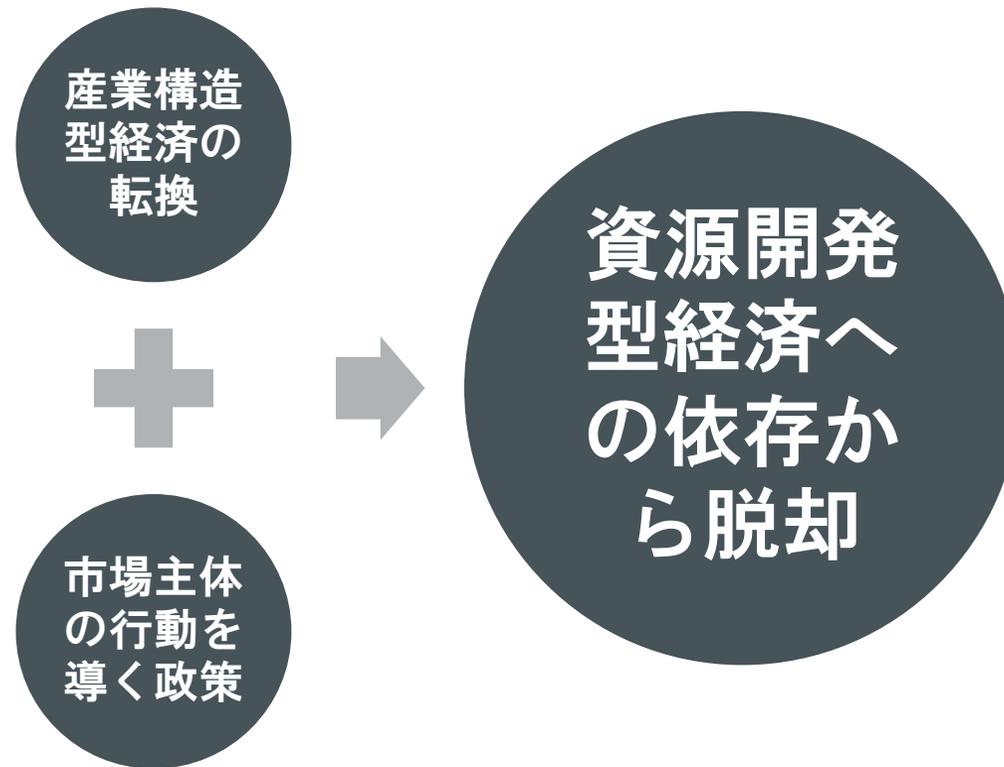


# 資源の呪いとの戦い

# コストの削減と財政再建

- 天然資源の販売による潤沢な収入は持続しない。  
→政府支出を増やさないことで対策する。
- 天然資源の高い経済的対価はあらゆる者の目をくらませる。  
レントシーキング、制度の弱体化、分配時の違法行為など...。  
そのような腐敗や、先細りとなる経済を回避するために必要な措置である。

# 資源優位の考え方の再考



# 産業構造の合理的な配置

- 4つの具体的な内容

相互補完的な  
生産体系の構築

産業構造の  
多元化

地域の競争原理を  
経営と資本の優位性  
へ転換する

サービス業と製造業  
の発展を支援

# 人的資本蓄積と内生的技術進歩

- 資源の呪いから脱却した国々は、天然資源を利用してもそこだけに依存せず、人的資本の蓄積、技術進歩、制度改革を希求し、持続する経済成長を実現していった。
- 資源に関連する産業は低賃金で雇える労働者が沢山いれば良い。  
しかし、現代の高技能な人材が要求される業界に携われる人たちの養成するには長い時間がかかる。  
→資源産業に依存して人材育成を怠ると、技術も発展せず、産業水準も低空飛行となる。



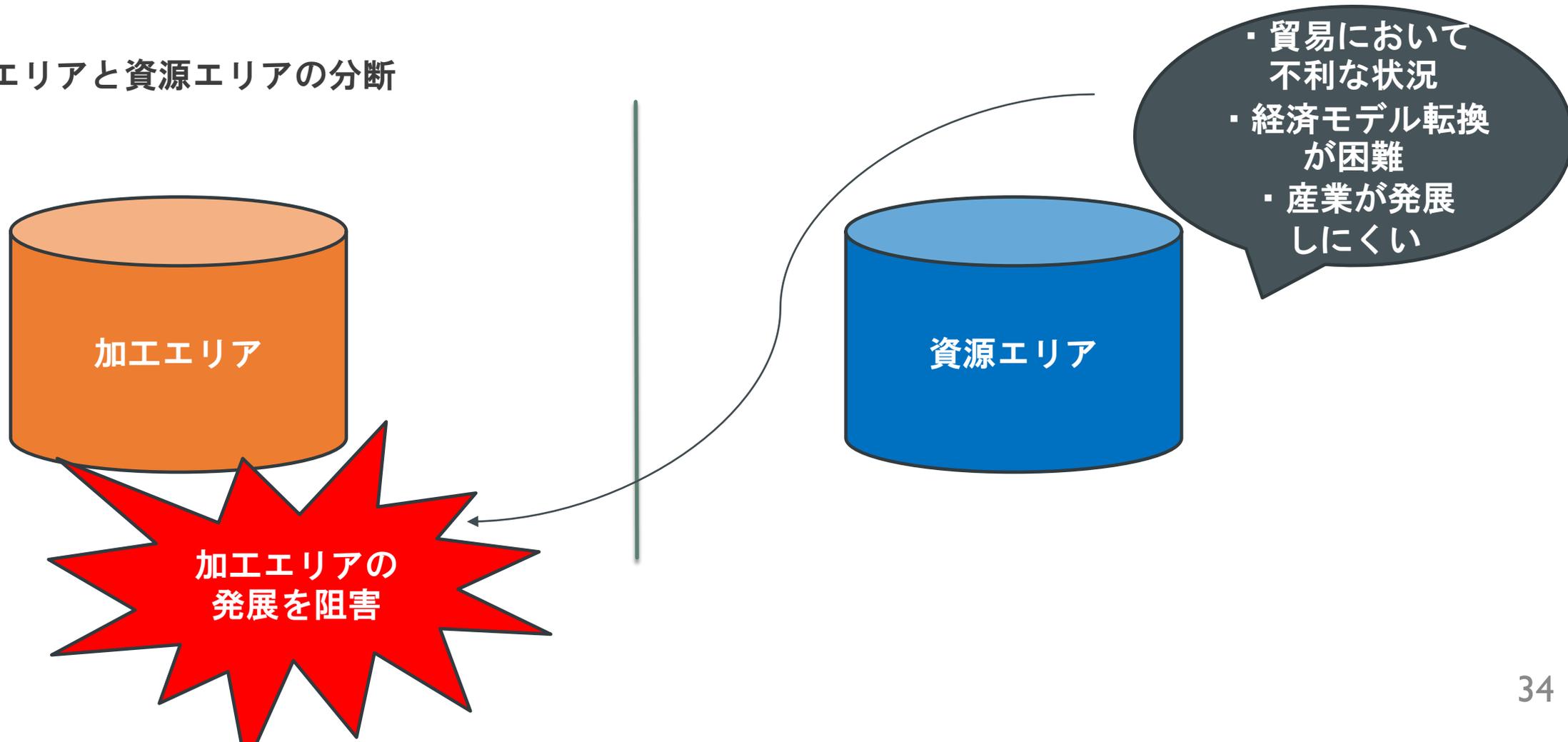
# まとめ

# まとめ

- 資源型経済の地域では、経済モデルの転換で「資源の呪い」に必ず直面する。
- 前章で示した方針が解決策として挙げられるが、それを現実にするには課題も残っている。  
...分業された市場化経済

# まとめ

## ■ 加工エリアと資源エリアの分断



# まとめ

- 地域経済の構造転換、産業の発展は社会経済の発展の二の次に置かれることが多い。
- その結果、資源が潤沢な地域では資源型産業に依存せざるを得ない状況に追いやられている。
- この問題をどう解決するかが、今後の課題である。

## 参考文献

- [1] 藏敷晴香 et al. “資源の呪いとどう戦うか-コンゴ 民主共和国への政策提言”. In: 早稲田社会科学総合 研究. 別冊, 2010 年度学生論文集 (2011), pp. 23– 39.
- [2] John L Hammond. “The resource curse and oil revenues in Angola and Venezuela”. In: *Science & society* 75.3 (2011), pp. 348–378.
- [3] 黒宮貴義. “天然資源等の存在と中東の経済発展の 関係について”. In: *国際政治* 148 (2015), pp. 43– 58.
- [4] 栗田英幸. “「資源の呪い」 メカニズムの多様性: フィリピンとモザンビークの比較分析を通して”. In: (2017).
- [5] Richard Auty and Alyson Warhurst. “Sus- tainable development in mineral exporting economies”. In: *Resources Policy* 19.1 (1993), pp. 14–29.
- [6] Richard Auty. *Sustaining development in min- eral economies: the resource curse thesis*. Rout- ledge, 2002.
- [7] Warner Max Corden. “Booming sector and Dutch disease economics: survey and consolida- tion”. In: *oxford economic Papers* 36.3 (1984), pp. 359–380.
- [8] Mario Holzner. “Fear of Croatian Disease. Is there a danger of a Dutch Disease Effect with respect to a boom in the tourism sector in Croa- tia in the long run-’The Croatian Disease’ ?” PhD thesis. WU Vienna University of Economics and Business, 2005.
- [9] The Super Pit gold mine in Kalgoor- lie <http://landdegradationassignment.weeb ly.com/impact.html>.
- [10] 栗田英幸. “「資源の呪い」 とフィリピン”. In: (2013).

## 参考文献

- [11] 栗田英幸.“鉱業先進国オーストラリアにおける民主制度の変質とネットワーク:ノーザンテリトリーの三事例を中心として”. In: 愛媛大学法文学部論集 総合政策学科編 35 (2013), pp. 41–75.
- [12] Richard M Auty. “Industrial policy, sectoral mat-uration, and postwar economic growth in Brazil:The resource curse thesis”. In: Economic Geog-raphy 71.3 (1995), pp. 257–272.
- [13] Joseph Siegle. “Governance strategies to remedy the natural resource curse”. In: International So- cial Science Journal 57 (2005), pp. 45–55.
- [14] David Wiens, Paul Poast, and William Roberts Clark. “The political resource curse: an empirical re-evaluation”. In: Political Research Quarterly 67.4 (2014), pp. 783–794.
- [15] Russian economy after six months of war <https://ridl.io/russian-economy-after-six-months-of-nbsp-war/>.
- [16] Economy of the Netherlands <https://en.wikipedia.org/wiki/EconomyoftheNetherlands>.
- [17] Economy of Venezuela <https://en.wikipedia.org/wiki/EconomyofVenezuela>. 5